

学習活動

① 分野の定義

◀ 現行計画（令和4～8年度）の定義

学習活動は、前計画の生涯学習にあたり、趣味や生きがい、キャリアアップなどのために、自由に選択して行う学習など、子どもから大人まで生涯にわたって行うあらゆる学習のことと定義づけます。学びの中で得た知識を人のためや地域づくりに活かすことや、様々な啓発活動事業等に参加することも学習活動であると言えます。一人ひとりが豊かな人生を送ることができるよう、だれもが、生涯にわたって、いつでも、どこでも学習し、その成果を活かすことのできる社会の実現をねらいとしています。

▷ 定義の再確認・検討の視点

学びの目的や意義を「個人の充実・成長」にとどめるか、学びの成果が地域・社会との関わりに広がるものとして位置づけるか検討が必要です。

② 現状と課題

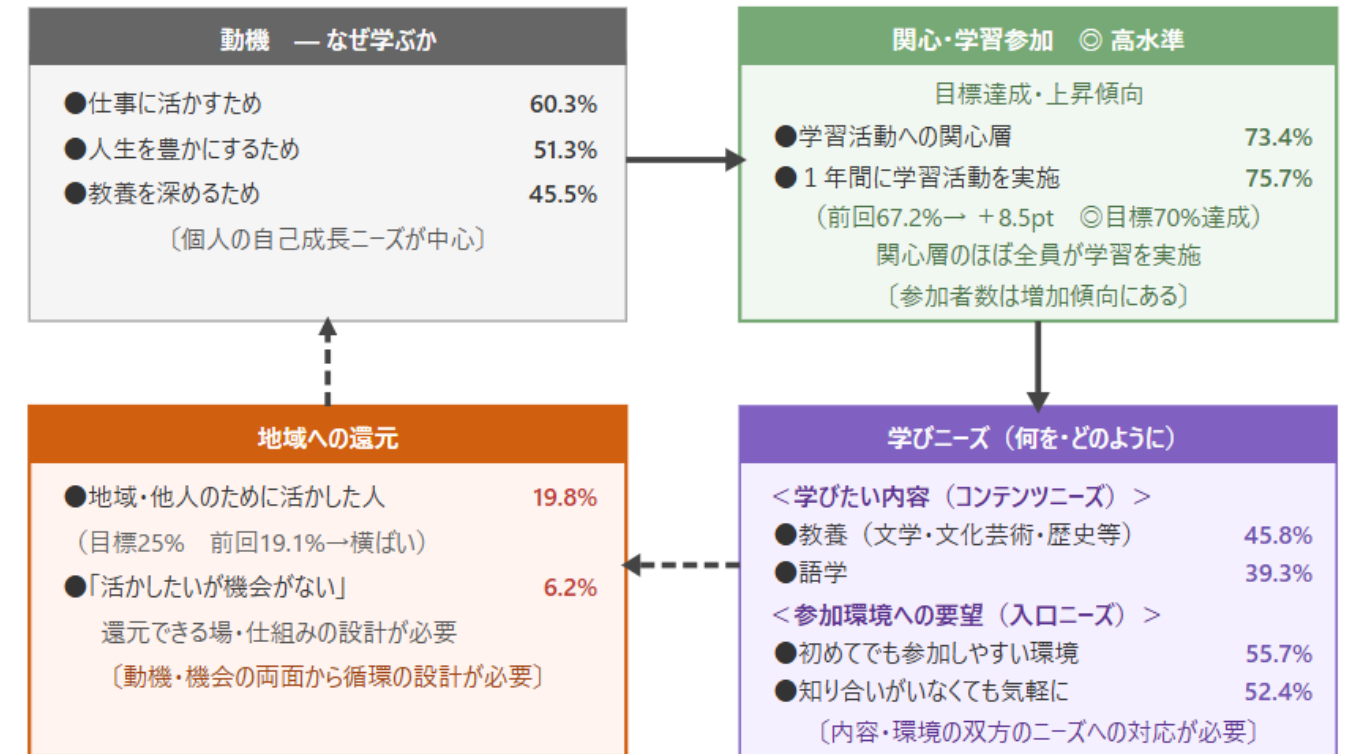
②-1 現行計画（R4～R8）指標の達成状況

| 基本方針 | 指標名 | R元年度の実績値 | R7年度の実績値 | 現行計画の目標値 |
|------|-------------------------|----------|----------|----------|
| ① | 1年間に学習活動を行った人の割合 | 67.2% | 75.7% | 70.0% |
| ③ | 学んだ内容を他人や地域のために活かした人の割合 | 19.1% | 19.8% | 25.0% |

②-2 現行計画期間（R4～R8）の主な成果

- ・文京アカデミア講座・いきいきアカデミア講座の受講者数が目標水準に達した。
- ・区民プロデュース講座が着実な成果をあげている。
- ・図書館の電子書籍提供・展示の工夫が区民の学習参加率向上に大きく寄与した様子。
- ・社会教育関係団体のアカデミー施設利用者が堅調に伸びている。
- ・個人・NPO・区内大学・区職員（文京お届け講座）等による地域資源を活かした学習支援が展開されている。

②-3 現状と課題の構造



→ つながっている（実線） --> つながりが弱い・課題あり（破線）

「地域への還元」は、「学びニーズ」から接続する仕組みが不足している（破線←）。
また、学びの「動機」を惹起する力がまだ弱い（破線↑）。

②-4 課題のまとめ

① 学びの体験型プログラムの充実

個人学習（ネット・書籍）が主流で集団・体験型が少ない。「初めてでも参加しやすい」ニーズが最多（55.7%）。

② オンライン学習と対面学習を選択可能な学びの機会の充実

ハイブリッド型学習の需要に対応する環境整備が必要。多様なライフスタイルへの対応。

③ 学習ニーズに合った講座の提供

「魅力的な学習内容を提供する」42.2%のニーズ。「仕事に活かすため」60.3%→リカレント教育・リスキリングへの対応。

他に、「学びの成果を地域に還元する仕組みの実効化」や「若年層・働く世代の学習参加促進」といった課題も挙げられます。